

取扱注意

林業土木  
積算基準

(令和7年10月20日以降適用)

令和7年12月20日 一部改定

令和7年12月26日 一部訂正

新潟県農林水産部

(3) 諸雑費

諸雑費は、製作・設置、製作の作業に必要な製作枠の損料、スコップ、ワイヤーロープ等の費用、設置（再設置含む）、撤去、撤去（再利用）、移設（撤去・再設置）の作業に必要なワイヤーロープ等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

(%)

作業種別	諸雑費率
製作・設置	1.0(2.0)
製作	2.0
設置（再設置含む）	0.2（0.2）
撤去	0.4（0.4）
撤去（再利用）	0.5（0.5）
移設（撤去・再設置）	0.2（0.2）

備考 ラフテレーンクレーンを使用する場合は、（ ）書きを使用する。

5 単 価 表

(10袋当たり)

名 称	規 格	単 位	数 量	摘 要
一般世話役		人	1×10/D	
特殊作業員		〃	1×10/D	
普通作業員 (山林砂防工)		〃	1×10/D	撤去・撤去（再利用）時は計上しない
大型土のう	容量 1 m <sup>3</sup>	袋	10	製作設置・製作時のみ計上する
土 砂		m <sup>3</sup>	10	製作設置・製作時のみ計上する ほぐした土量
バックホウ運転 (クローラ型)運転	後方超小旋回型・超低騒音型・クレーン機能付き・排出ガス対策型(2014年規制) 山積 0.45m <sup>3</sup> (平積 0.35m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日	10/D	必要に応じて計上
ラフテレーン クレーン賃料	排出ガス対策型(第3次基準値) 油圧伸縮ジブ型25t吊	〃	10/D	必要に応じて計上
諸 雑 費		式	1	

備考 D：日当たり施工量

## 4-2 掘削工

### 4-2-1 掘削法及び機種を選定

#### 1 掘削法

##### (1) オープンカット

バックホウ掘削：バックホウによる掘削及び積込作業をいう。

##### (2) 片切

人力併用機械掘削：バックホウによる掘削と一部人力による切崩しの組合せによる作業をいう。

#### 2 機種を選定

山地治山土工の機械施工の機種選定に当たっては、各工事の作業内容、現地条件（工期、地耐力、傾斜度、施工に伴う障害等の有無、走行面の状況、騒音、振動規制、水質汚濁防止）、安全性、入手状況等を考慮の上、バックホウを標準として適用機種を選定する。

標準として積算に用いる機種は以下のとおりとするが、工事量、現場条件を勘案して最も適した機種を選定するものとする。

##### (1) バックホウによる掘削・積込作業の機種選定

作業の種類	作業内容		バックホウの規格
・地山の掘削 積込 ・ルーズな状態 の積込	1箇所当たりの施工土量が100m <sup>3</sup> 程度までの掘削・積込・床掘又は平均施工幅1m未満の床掘の場合		本章第3節「3-5小規模土工」による
	施工土量 10,000m <sup>3</sup> 未満	上記以外の場合で、狭隘で旋回範囲に制限がある場合	クローラ型・ <b>後方超小旋回型</b> ・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )
		上記以外	クローラ型・標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.80m <sup>3</sup> (平積0.60m <sup>3</sup> )
	施工土量10,000m <sup>3</sup> 以上の場合		別途考慮

- 備考
1. 上表で示す土量は、1箇所当たりと記載のあるものを除き、1工事当たりの扱い土量である。
  2. 「1箇所」とは、目的物（構造物・掘削等）1箇所当たりのことであり、目的物が連続している場合は、連続している区間を1箇所とする。
  3. 現場条件により上表により難しい場合は、別途考慮する。

(2) 運搬土量によるダンプトラックの機種選定

土の運搬は、バックホウとダンプトラックによる組合せを標準とするが、トラフィカビリティが確保できない場合は、不整地運搬車を適用することができる。

また、運土距離が60m以下の場合には、ブルドーザを適用することができる。

機 種		適用区分
ダンプトラック	2 t 積級	1 箇所当たり運搬量が50m <sup>3</sup> 以下の場合
	4 t 積級	1 箇所当たり運搬量が100m <sup>3</sup> 以下の場合
	10 t 積級	標準機種

4-2-2 施工歩掛

1 バックホウ掘削（掘削・積込み、積込み）

S1110

バックホウ掘削による各作業の日当たり作業量は、次表を標準とする。

日当たり作業量

(1日当たり)

作業種別	制限の有無	山地 治山工 区分	工種 区分	名称	規格	土質名	単位	数量		
								良好	普通	不良
地山の掘削・積込	あり	A	溪間工	バックホウ (クローラ 型) 運転	後方超小旋回型・ 超低騒音型・排出 ガス対策型 (2014 年規制) 山積0.45 m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	砂・砂質土、粘性土、 礫質土	m <sup>3</sup>	97	84	67
						岩塊・玉石、 軟岩 (I) A	m <sup>3</sup>	77	67	48
			砂・砂質土、粘性土、 礫質土			m <sup>3</sup>	67	58	48	
			岩塊・玉石、 軟岩 (I) A			m <sup>3</sup>	48	42	39	
		B	溪間工			砂・砂質土、粘性土、 礫質土	m <sup>3</sup>	110	96	77
						岩塊・玉石、 軟岩 (I) A	m <sup>3</sup>	86	75	58
			山腹工			砂・砂質土、粘性土、 礫質土	m <sup>3</sup>	77	67	58
						岩塊・玉石、 軟岩 (I) A	m <sup>3</sup>	58	50	48
	なし	A	溪間工	バックホウ (クローラ 型) 運転	標準型・超低騒音 型・排出ガス対策 型 (第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	砂・砂質土、粘性土、 礫質土	m <sup>3</sup>	170	148	120
						岩塊・玉石、 軟岩 (I) A	m <sup>3</sup>	130	113	84
			砂・砂質土、粘性土、 礫質土			m <sup>3</sup>	120	104	84	
			岩塊・玉石、 軟岩 (I) A			m <sup>3</sup>	84	73	67	
		B	溪間工			砂・砂質土、粘性土、 礫質土	m <sup>3</sup>	180	157	130
						岩塊・玉石、 軟岩 (I) A	m <sup>3</sup>	150	131	100
山腹工	砂・砂質土、粘性土、 礫質土	m <sup>3</sup>	130	113	100					
	岩塊・玉石、 軟岩 (I) A	m <sup>3</sup>	100	87	84					

作業種別	制限の有無	山地治山工区分	工種区分	名称	規格	土質名	単位	数量		
								良好	普通	不良
ルーズな状態の積込	あり	A	溪間工	バックホウ(クローラ型)運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制)山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	砂・砂質土、粘性土、礫質土	m <sup>3</sup>	110	96	77
						岩塊・玉石	m <sup>3</sup>	86	75	58
						破碎岩	m <sup>3</sup>	67	58	39
			砂・砂質土、粘性土、礫質土			m <sup>3</sup>	77	67	58	
			岩塊・玉石			m <sup>3</sup>	58	50	48	
		破碎岩	m <sup>3</sup>			39	34	28		
		B	溪間工			砂・砂質土、粘性土、礫質土	m <sup>3</sup>	120	104	86
						岩塊・玉石	m <sup>3</sup>	97	84	67
						破碎岩	m <sup>3</sup>	77	67	48
			山腹工			砂・砂質土、粘性土、礫質土	m <sup>3</sup>	86	75	67
	岩塊・玉石			m <sup>3</sup>	67	58	58			
	なし	A	溪間工	バックホウ(クローラ型)運転	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値)山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	砂・砂質土、粘性土、礫質土	m <sup>3</sup>	180	157	130
						岩塊・玉石	m <sup>3</sup>	150	131	100
						破碎岩	m <sup>3</sup>	120	104	67
			砂・砂質土、粘性土、礫質土			m <sup>3</sup>	130	113	100	
			岩塊・玉石			m <sup>3</sup>	100	87	84	
		破碎岩	m <sup>3</sup>			67	58	50		
		B	溪間工			砂・砂質土、粘性土、礫質土	m <sup>3</sup>	200	174	150
						岩塊・玉石	m <sup>3</sup>	170	148	120
						破碎岩	m <sup>3</sup>	130	113	84
山腹工			砂・砂質土、粘性土、礫質土			m <sup>3</sup>	150	131	120	
	岩塊・玉石		m <sup>3</sup>	120	104	100				
破碎岩	m <sup>3</sup>	84	73	67						

備考 1. 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限があり、バックホウ山積0.8m<sup>3</sup>(平積0.6m<sup>3</sup>)による作業が困難な場合

制限なし：バックホウ山積0.8m<sup>3</sup>(平積0.6m<sup>3</sup>)での作業が可能な場合

2. 現場条件の内容

良好： 作業現場が広く、掘削深さが最適であり、地山が緩んでいて、かつ作業妨害が少なく連続作業が可能等の良好な現場条件がそろっている場合。

不良： 作業現場が狭く、掘削深さが最適でなく、地山が固く、かつ連続作業が困難で作業妨害が多い等の不良な現場条件がそろっている場合。

普通： 作業現場の広さ、掘削深さ、地山の固さ、作業妨害の影響などの現場条件が中位と考えられる場合。

3. 破碎岩とは、中硬岩及び硬岩を破碎したものをいう。

4. 地山の掘削・積込みは、地山の掘削及び掘削・積込みの作業に適用する。

5. ルーズな状態の積込みは、掘削により仮置きされた土砂等の積込、転圧・締固めを伴わない埋戻しの作業等に適用する。

## 2 人力併用機械掘削（土砂）（片切掘削）

S1130

### (1) 機種の選定

機種、規格は、次のとおりとする

作業内容	機種	規格	単位	数量
狭隘で旋回範囲に制限がある場合	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	台	1
上記以外の場合	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	〃	〃

### (2) 日当たり作業量

人力併用機械掘削（片切掘削）の日当たり作業量は、次表を標準とする。

(1日当たり)

制限の有無	機種	規格	土質名	単位	数量
あり	バックホウ (クローラ型)	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型 (2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	砂・砂質土、粘性土、礫質土	m <sup>3</sup>	61
			岩塊・玉石、軟岩 (I) A	〃	45
なし	バックホウ (クローラ型)	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型 (第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	砂・砂質土、粘性土、礫質土	〃	110
			岩塊・玉石、軟岩 (I) A	〃	81

#### 備考 1. 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限がある場合

制限なし：上記以外の場合

2. 本歩掛は、掘削までとし、法面整形は含まない。

### (3) 労務歩掛

人力併用機械掘削（片切掘削）の労務歩掛は、次表を標準とする。

(10m<sup>3</sup>当たり)

制限の有無	名称	土質名	単位	数量
あり	普通作業員 (山林砂防工)	砂・砂質土、粘性土、礫質土	人	0.16
		岩塊・玉石、軟岩 (I) A	〃	0.22
砂・砂質土、粘性土、礫質土		〃	0.12	
岩塊・玉石、軟岩 (I) A		〃	0.16	
なし				

#### 備考 1. 制限の内容

制限あり：狭隘で旋回範囲に制限がある場合

制限なし：上記以外の場合

2. 本歩掛は、掘削までとし、法面整形は含まない。

#### 4-2-3 単価表

##### 1 バックホウ掘削(掘削・積込、積込)

S1110

(100m<sup>3</sup>当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
バックホウ (クローラ型)運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	日	100/D	
計				

D：日当たり作業量

##### 2 人力併用機械掘削(土砂)(片切掘削)

S1130

(10m<sup>3</sup>当たり)

名称	規格	単位	数量	摘要
普通作業員 (山林砂防工)		人		
バックホウ (クローラ型)運転	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> ) 標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	日	10/D	
計				

D：日当たり作業量

##### 3 機械運転単価表

名称	規格	指定事項
バックホウ (クローラ型) (掘削・積込、積込)	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →65 機械損料数量→1.54
	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →94 機械損料数量→1.47
バックホウ (クローラ型) (片切掘削)	後方超小旋回型・超低騒音型・排出ガス対策型(2014年規制) 山積0.45m <sup>3</sup> (平積0.35m <sup>3</sup> )	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →65 機械損料数量→1.56
	標準型・超低騒音型・排出ガス対策型(第3次基準値) 山積0.8m <sup>3</sup> (平積0.6m <sup>3</sup> )	運転労務数量→1.00 燃料消費量 →94 機械損料数量→1.45

## 5-2 機械盛土 (B)

S1191、S1194

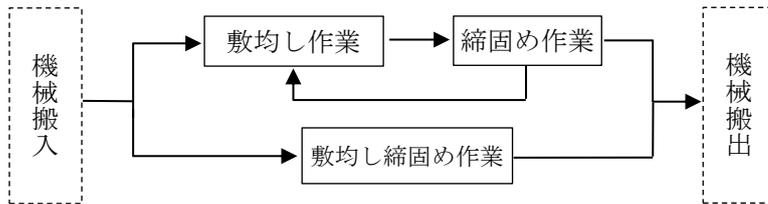
### 5-2-1 適用範囲及び施工概要

#### 1 適用範囲

本歩掛は、「5-1 機械盛土 (A)」を除く施工幅員が4.0m以上の路体、路床、築堤の盛土に適用する。(ただし、施工幅員が4.0m以上かつ施工土量が20,000m<sup>3</sup>以上の林道工事における盛土は、施工パッケージ型積算方式の基準1章②土工を適用する)。

なお、整地作業には適用しない。

#### 2 施工概要 (施工フロー)



備考 本歩掛で対応しているのは、実践部分のみである。

### 5-2-2 機種の選定

機種・規格は、次表を標準とする。

作業	工種	作業の内容	機械名	規格
敷均し	路体	林道工事 (施工土量5,000m <sup>3</sup> 未満) を除く施工幅員が4.0m以上の場合で、かつ、施工土量が20,000m <sup>3</sup> 未満の場合	ブルドーザ	11t級
	築堤			
路床				
締固め	路体	同上	タイヤローラ	8~20t級
	築堤		ブルドーザ	11t級
	路床		タイヤローラ	8~20t級

- 備考
1. 機種の選定に当たっては、上表を標準とするが、工事規模、作業条件、土質、土の含水比、他の工種との関連する機械の組合せ等により上表により難しい場合は、別途考慮する。
  2. 上表に示す土量は、工事全体の設計量である。
  3. 林道工事における締固めの標準機種は、タイヤローラとする。